

SALE
UP TO
90%
off

Open
Talks!
2019 **5**
May

伝説のセール再び!



毎年春と秋に OTS 湾岸センター内で開催される OTS セール！
お客様の在庫消化のお手伝いを！と始まったこのセールも回を追うごとに来客者数が増え、
ご参加いただいている企業様にも大変好評をいただいております。
【在庫がどんどん売れていく倉庫】を夢見て、OTS はおせっかい物流を加速していきます。

◆OTS セールとは？

B 品やサンプル、キャリー在庫等、プロパーで販売できない商品を、OTS 湾岸センター倉庫内で、弊社の従業員（家族・友人含）やお取引のある会社様向けに開催される**クローズなセール**です。
前回 2018 年 11 月開催時には参加企業様 7 社に対し、来場者は約 650 名と大盛況のうちに終了しました。

◆出店したい!!

次回の開催日程等は未定となっておりますが OTS セールへの出店に興味をお持ちでしたら、弊社の物流担当者にお声がけください。
出店費用については、規模も大きくなりセール会場の準備・警備等の万全を期すため、売上から一定のパーセンテージを運営費用として頂戴しております。

◆買い物に行きたい!

ぜひお越しください。
出店企業様はもちろんのこと、OTS とお取引のある皆様でしたらご来場大歓迎です。
OTS の物流の担当者または営業担当者に一声おかけいただければご入場いただけます。



会場
オーティーエス湾岸センター
東京都江戸川区臨海町 3-5-1 東京団地倉庫 A 棟
最寄駅：東京メトロ東西線 葛西駅よりバス利用
JR 京葉線 葛西臨海公園より徒歩 10 分

■□□□□ご来場時のお願い■□□□□

- SALE お車でのご来場はご遠慮ください。
倉庫敷地内駐車場は全て契約駐車場となっております><
- SALE セキュリティーの都合上、倉庫内お手洗いをご利用いただけません。
ご不便おかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。
- SALE 会場内は飲食・撮影禁止とさせていただきます。
クローズセールのため、出店ブランド・商品はヒミツなのです!
- SALE 出店ブランド様ごとのお会計となります。
複数企業様参加の合同イベントです。お会計もそれぞれでお願いします。
- SALE セール品のため返品・交換は致しかねますのでご了承ください。



ご来場を心よりお待ちしております。
～湾岸センター～

ご存知ですか?

アサーティブコミュニケーション

<本部広報 高橋>

<アサーティブ> という言葉 ご存知ですか?

- アサーティブ 「自他共に大切にふるまう、表現をさる」
- アサーション 「遠い関係のものが、近づくようにふるまう活動」
- アサーティブネス 「自他共に大切にされていると実感のもてる win-win な関係」

日本で広く使われ始めたのは、まだ 10 年くらい前からです。
アメリカでは、1960 年代「人種差別」や「男女差別」撤廃運動が盛んな頃から広まりました。
アサーティブのベースには「自己を尊重する事が、他者を尊重する事につながる」という考えがあります。

なぜ今、アサーティブが必要とされているのでしょうか。
多様化（ダイバーシティ）やグローバル化が進む中で「自分にとっての『常識』は、相手にとっての『非常識』であるという可能性もある」ということなのです。
お互いに、自分の立場や考えを伝え合うことが、今まで以上に大切になっているのです。

- アサーティブのキーワードは「対等」「率直」「誠実」「自己責任」この 4 つです。
- 「対 等」 上下関係や力で相手をコントロールすることなく、同じ人間同士として向き合う。
 - 「率 直」 遠まわしにくどくど言い訳せず、気持ちや意見をシンプルな言葉にする。
 - 「誠 実」 自分にも、相手にも正直に、心をこめて向き合うこと。
 - 「自己責任」 自分がどうするかを自分で決め、結果にも責任をもつ。
=人の言いなりになったり、人のせいにしない。

OTS ではこのアサーティブを非常に重要なものとして、社内研修を通じて積極的に社員教育を行っています。
頭ではわかっていても実践の難しい 4 つのキーワードを日頃から意識できるよう新卒・中途社員だけでなくパート社員への教育にも取り入れており、700 名を超える人間が集う OTS の人間関係が常に健康で円滑な状態でいられるよう力を入れています。

各個人が自分の意見や成果をアサーティブを用いて、積極的に社内にアピールできるようになることでより良いアイデアや人間関係が生まれてくると考えています。

人間関係の改善により人材の【定着】が進み、意見を言いやすい環境は仕事の【カイゼン】に繋がります。
アサーティブこそこれからの企業やコミュニティを成長させる一番のコミュニケーションツールとなるのではないのでしょうか。